

1-5

早期胃癌に対する非穿孔式内視鏡的胃壁内反切除術 (NEWS) + センチネルリンパ節ナビゲーション手術 (SNNS) の可能性

慶應義塾大学医学部腫瘍センター低侵襲療法研究開発部門¹⁾

慶應義塾大学医学部一般・消化器外科²⁾

後藤修¹⁾ 竹内裕也²⁾ 松田諭²⁾ 川久保博文²⁾ 佐々木基¹⁾ 藤本愛¹⁾ 堀井城一朗¹⁾ 浦岡俊夫¹⁾
北川雄光²⁾ 矢作直久¹⁾

内視鏡と腹腔鏡を用いて胃内外を交通させずに病変を最小範囲で全層切除する非穿孔式内視鏡的胃壁内反切除術 (Non-exposed endoscopic wall-inversion surgery: NEWS) は、胃癌に対しても腹腔内汚染や播種を危惧することなく理想的な局所切除が行える術式として期待されている。我々は、この「最小範囲の非穿孔式局所切除法」であるNEWSに「最小範囲のリンパ郭清法」であるセンチネルリンパ節ナビゲーション手術 (Sentinel node navigation surgery: SNNS) を融合させることで、内視鏡治療適応外となる早期胃癌に対して理想的な胃温存手術が提供できると考え、その実行可能性について生体ブタを用いた1週間の生存実験を施行した。色素法を用いて同定されたSNを含むリンパ流域 (SN basin) を切除した後、仮想病変の漿膜筋層を切開、病変を内反させながら漿膜筋層を縫合し、最後に内視鏡で粘膜を切開して病変を全層切除し経口的に回収する、という手技を行い、3頭全例において手技を完遂し偶発症なく生存した。解決すべき課題はあるものの、術後QOLの維持が最大限に期待できるNEWS+SNNSは、新しい早期胃癌手術法として実現可能と考えている。